

科目名	体育原理			担当教員	長瀬 基延	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	公立学校の教頭・保健体育科教諭、公益財団法人のスポーツ指導員					
実務経験を生かした授業内容	教育現場での経験を生かし、体育授業に関連付けた体育原理の講義を行う					
到達目標及びテーマ	体育授業に関連付け、体育をとりまく諸課題について学習し、身に付けた知識を生かした内容で、資料の作成および説明、集団での討議ができる					
授業の概要	運動・スポーツとは何か、運動・スポーツを学ぶとはどういったことを考えることを目的とする。学校教育にとどまらず、運動・スポーツを社会全体から概観して、その問題点と可能性を検討する。					

授業計画	
第1回	授業の進め方と評価について
第2回	なぜ体育原理を学ぶのか、体育原理とはどのような学問か
第3回	スポーツライフの履歴について
第4回	スポーツライフの履歴作成
第5回	スポーツライフの履歴発表
第6回	体育・スポーツ・健康に関する専門領域について
第7回	体育・スポーツ・健康に関する専門領域の探究（１）体育史、体育哲学、体育社会学、体育心理学
第8回	体育・スポーツ・健康に関する専門領域の探究（２）運動生理学、バイオメカニクス、発育発達、体育方法
第9回	体育・スポーツ・健康に関する専門領域の探究（３）保健、体育科教育学、介護予防・健康、体育・スポーツ政策
第10回	体育・スポーツ・健康に関する専門領域の発表および討議
第11回	教養としての体育原理に関する協働的な探究（１）運動のもつ可能性、体育における人間形成、体育とフェアプレイ、体育と身体形成
第12回	教養としての体育原理に関する協働的な探究（２）身体からみた体育の可能性、体育で競争をどのように位置づけるか、プレイが生み出す体育の可能性、技術指導からみた体育
第13回	教養としての体育原理に関する協働的な探究（３）体育と指導者、運動部活動の意義と課題、子供からみた体育の存在意義、社会変化と今後の体育
第14回	教養としての体育原理に関する発表および討議
第15回	授業を通じて学修した事項を整理し、レポートにまとめ、発表する

事前学修		テキストを事前に読み、テーマに関する理解を深めておく。発表者に質問する内容及び独自に調べた内容を発表できるようにまとめておく。
事後学修		講義スライド、テキスト、仲間の発表資料や小レポートを用いて、学習内容を振り返る。
フィードバックの方法	個々で作成した発表資料や小レポートを活用して、相互に学び合えるように集約する。学び合いを通して学修者が得た気づきを互いにフィードバックする。また、総括としての全体へのフィードバックを教員が行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	70%	発表資料・小レポート課題60% 最終レポート10%
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業への参加度
定期試験	0%	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
体育・スポーツ・健康概論	関朋昭他	ナカニシ出版	9784779517570	なし
教養としての体育原理	友添秀則他	大修館書店	9784469267976	なし
参考資料				